

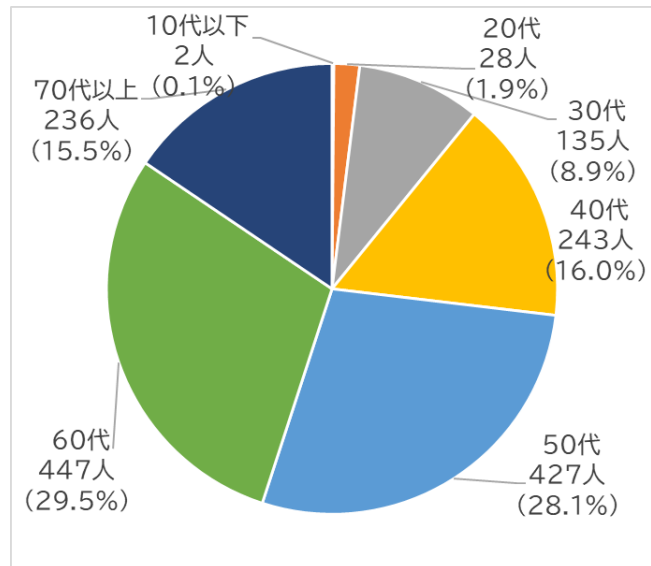
令和7年度 LINE を活用したアンケート 調査結果
心のバリアフリーに関する調査

テーマ	心のバリアフリー
目的	本市では、年齢・性別・国籍・障がいのある・なしなどの違いに関わらず、一人ひとりが尊重され、誰もが安心して生活できる共生社会の実現に向けて、心のバリアフリーの啓発に取り組んでいます。この調査は、一人ひとりの心のバリアフリーに対する理解を伺ったものです。

【調査期間】 令和7年4月16日(水)～4月30日(水)午前8時
【対象者数】 54,717名
(福島市公式 LINE 友だち登録者のうち、受信設定が市内かつアンケート同意者)
【回答者数】 1,518名
【回答率】 2.8%

問1 あなたの年代をおたずねします。

項目	回答数(人)	割合(%)
10代以下	2	0.1%
20代	28	1.9%
30代	135	8.9%
40代	243	16.0%
50代	427	28.1%
60代	447	29.5%
70代以上	236	15.5%
合計	1,518	100.0%



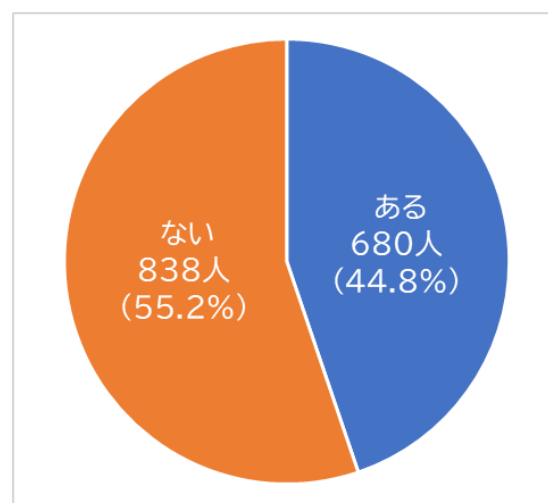
【共生社会推進課】

回答者は「60代」が最も多く、次いで「50代」、「40代」の順になっており、3つの世代で約7割の回答となっています。30代は約1割、10代と20代は1割未満でした。

問 2

心のバリアフリーという言葉を見たり、聞いたりしたことはありますか。

項目	回答数(人)	割合(%)
ある	680	44.8%
ない	838	55.2%
合計	1,518	100.0%



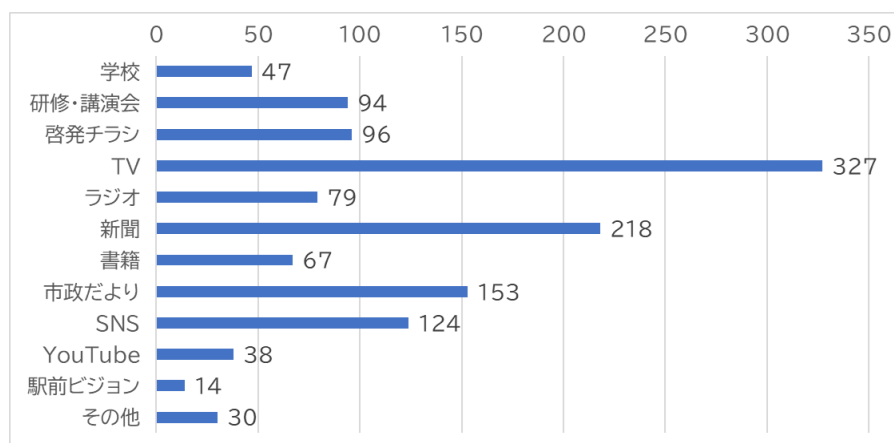
【共生社会推進課】

「ない」と答えた方が、「ある」と答えた方を10ポイントほど上回りました。心のバリアフリーが、まだ十分には浸透していないことが分かりました。

問 3

問2で「ある」と回答した方にお聞きします。
心のバリアフリーについて、どこで見たり、聞いたりしましたか。(複数回答可)

項目	回答数(人)
学校	47
研修・講演会	94
啓発チラシ	96
TV	327
ラジオ	79
新聞	218
書籍	67
市政だより	153
SNS	124
YouTube	38
駅前ビジョン	14
その他	30
合計	1,287



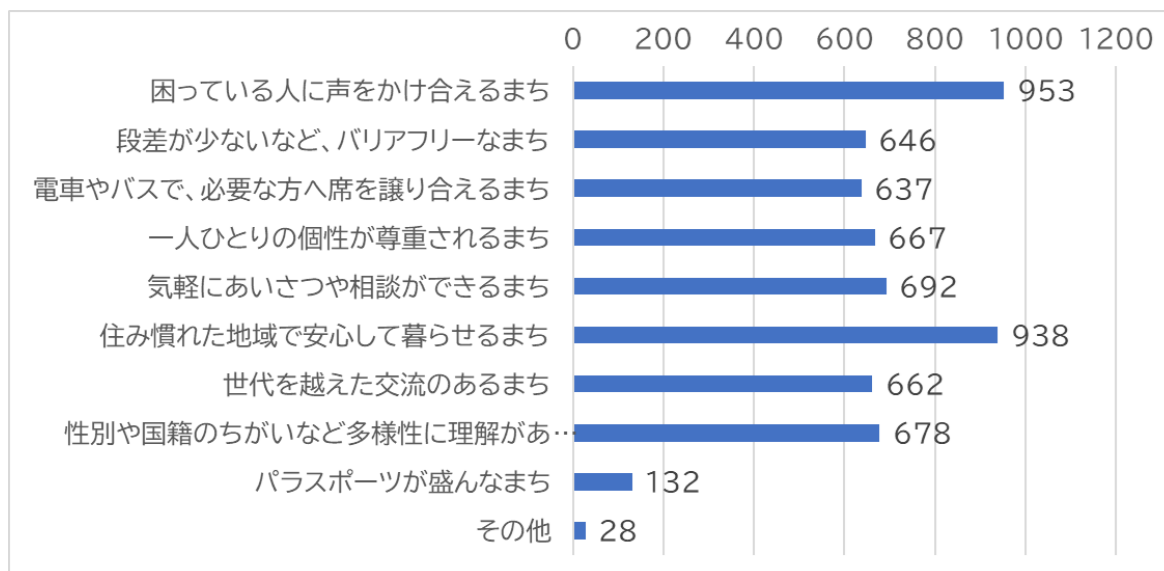
【共生社会推進課】

「TV」と回答した方が最も多く、回答した方の約半数となっています。次いで、「新聞」「市政だより」を情報源に挙げています。

問 4

あなたが思う「共生社会が実現されたまち」はどのようなまちですか。

項目	回答数(人)
困っている人に声をかけ合えるまち	953
段差が少ないなど、バリアフリーなまち	646
電車やバスで、必要な方へ席を譲り合えるまち	637
一人ひとりの個性が尊重されるまち	667
気軽にあいさつや相談ができるまち	692
住み慣れた地域で安心して暮らせるまち	938
世代を越えた交流のあるまち	662
性別や国籍のちがいなど多様性に理解があるまち	678
パラスポーツが盛んなまち	132
その他	28
合計	6,033



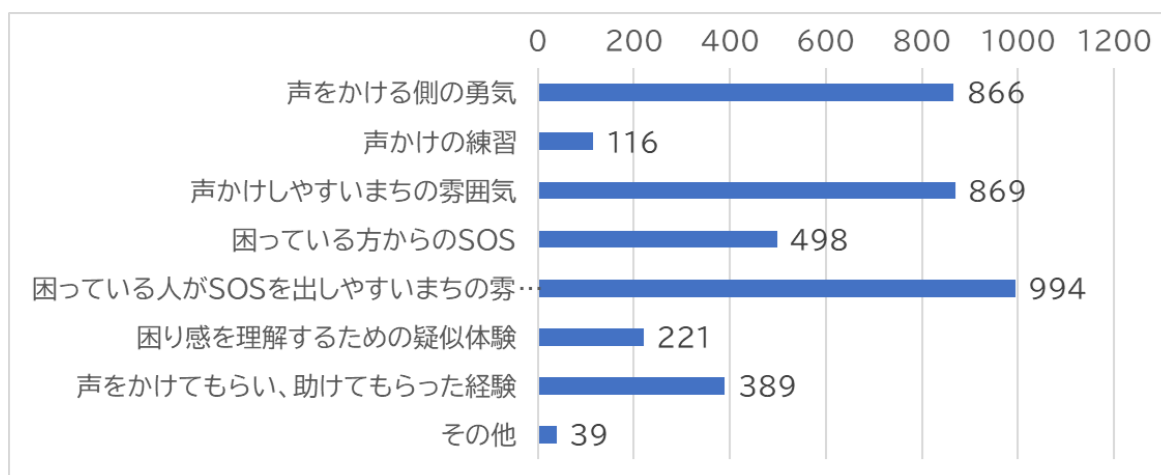
【共生社会推進課】

「困っている人に声をかけ合えるまち」、「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」がほぼ同数で最も多く回答されており、相手を思いやることや安心した生活環境を共生社会の姿と捉えている方が多いことが分かりました。

問 5

困っているときにお互いに声をかけ合うために、何が必要だと思いますか。

項目	回答数(人)
声をかける側の勇気	866
声かけの練習	116
声かけしやすいまちの雰囲気	869
困っている方からのSOS	498
困っている人がSOSを出しやすいまちの雰囲気	994
困り感を理解するための疑似体験	221
声をかけてもらい、助けてもらった経験	389
その他	39
合計	3,992



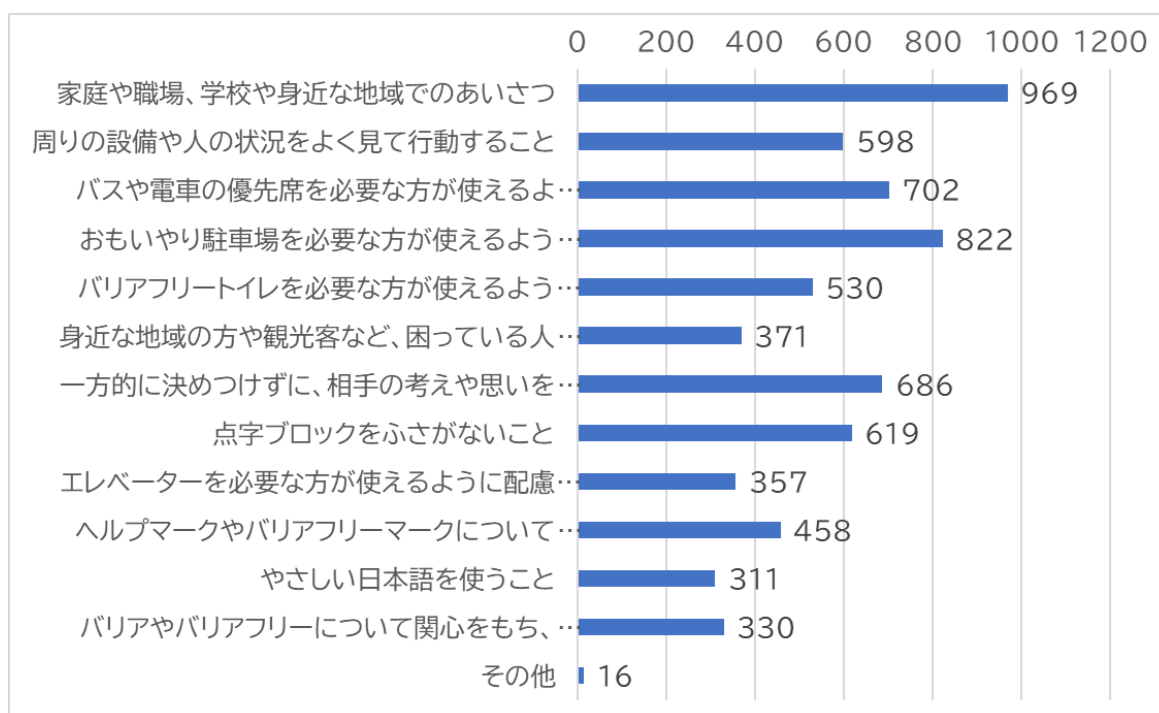
【共生社会推進課】

「困っている人が SOS を出しやすい」「声かけしやすい」と、ともにまちの雰囲気に関する回答が多い一方で、「声をかける側の勇気」との回答が続いており、困っている方へアプローチしようとする気持ちが重要と捉えていることが分かりました。

問 6

日頃から心掛けている心のバリアフリーの行動を教えてください。

項目	回答数(人)
家庭や職場、学校や身近な地域でのあいさつ	969
周りの設備や人の状況をよく見て行動すること	598
バスや電車の優先席を必要な方が使えるように配慮すること	702
おもいやり駐車場を必要な方が使えるように配慮すること	822
バリアフリースイレを必要な方が使えるように配慮すること	530
身近な地域の方や観光客など、困っている人への声かけ	371
一方的に決めつけずに、相手の考えや思いを聴くこと	686
点字ブロックをふさがないこと	619
エレベーターを必要な方が使えるように配慮すること	357
ヘルプマークやバリアフリーマークについて知ること	458
やさしい日本語を使うこと	311
バリアやバリアフリーについて関心をもち、情報収集すること	330
その他	16
合計	6,769



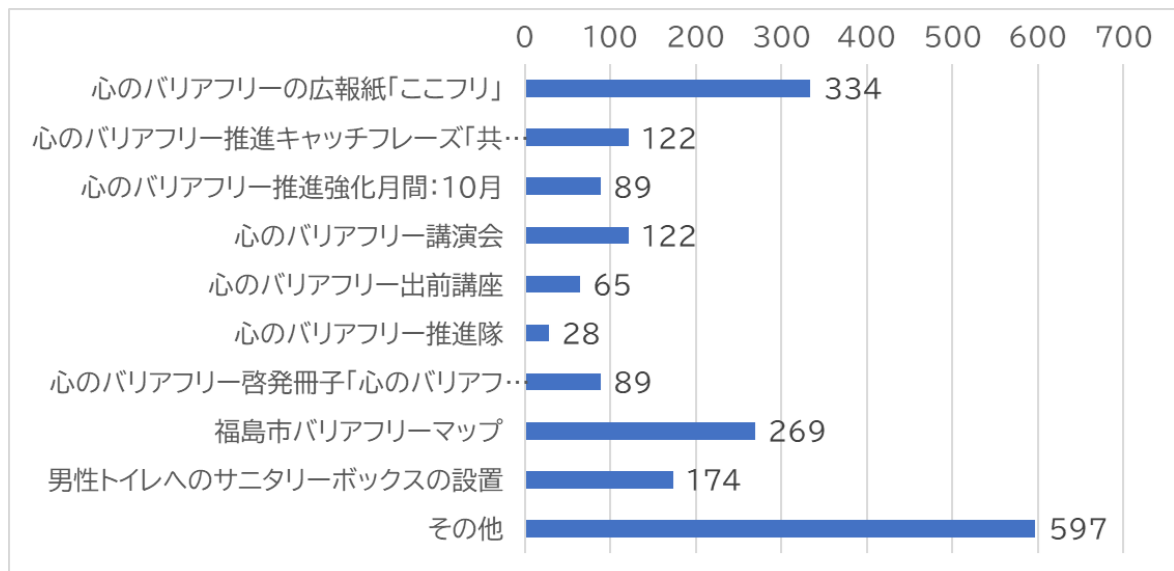
【共生社会推進課】

「身近な地域でのあいさつ」との回答が最も多く、「おもいやり駐車場」や「バスや電車の優先席」などへの配慮が続いており、困っている方への声掛けを重視しながらも、制度を必要とする方への具体的な行動を心掛けていることが分かりました。

問 7

本市の次の取り組みのうち、知っているものを教えてください。

項目	回答数(人)
心のバリアフリーの広報紙「ここフリ」	334
心のバリアフリー推進キャッチフレーズ「共生、学びは無限大」	122
心のバリアフリー推進強化月間:10月	89
心のバリアフリー講演会	122
心のバリアフリー出前講座	65
心のバリアフリー推進隊	28
心のバリアフリー啓発冊子「心のバリアフリーってなあに？」	89
福島市バリアフリーマップ	269
男性トイレへのサニタリーボックスの設置	174
その他	597
合計	1,889



〈その他のご意見〉

- バリアフリーは知っているが、心のバリアフリーは知らなかった。
- 市の取り組みは知らなかった。
- 言葉は知っているが、現実的なことはわからない。

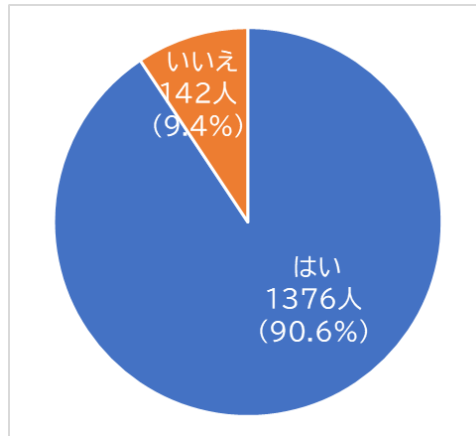
【共生社会推進課】

広報紙「ここフリ」や福島市バリアフリーマップの取り組みを知っているとの回答が多かったものの、その他として、「市の取り組みを知らない」「言葉は知っているが、現実的なことはわからない」などのご意見をいただいております。市の取り組みが十分に発信できていないことが分かりました。

問 8

心のバリアフリーは、あなた自身に関係があることと思いますか。

項目	回答数(人)	割合(%)
はい	1,376	90.6%
いいえ	142	9.4%
合計	1,518	100.0%

**【共生社会推進課】**

9割を超える方が、心のバリアフリーを自身に関係があることと回答しており、「自分事」として捉えられていることが分かりました。

【共生社会推進課まとめ】

調査の結果から、心のバリアフリーを推進していくためには、身近な声かけなどを行いやすい雰囲気づくりの重要性などが明らかになりました。また、市の取り組みを知っていただくための情報発信のあり方などについても参考となる点がありました。

今回お寄せいただいたデータをもとに、今後も、市民の皆さまからの貴重なご意見を参考にしながら、心のバリアフリーの取り組みを推進していきます。アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

【問い合わせ先】

福島市役所(〒960-8601 福島市五老内町3番1号)

《アンケート内容に関して》

共生社会推進課

電話 024-572-3948(直通)

《LINE アンケート制度に関して》

広聴広報課

電話 024-563-7488(直通)